

令和7年度 事業報告書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

(令和7年度事業報告書)

1.	学術・科学技術の振興	1
1. 1	倉田奨励金	1
1. 2	日立財団科学技術セミナー	5
1. 3	日立財団アジアイノベーションアワード	6
1. 4	日立感染症関連研究支援基金	9
2.	人づくり	10
2. 1	理工系人財育成支援事業	10
(1)	日立みらいイノベータープログラム（小学生向け）	10
(2)	理工系女子応援プロジェクト（中・高生向け）	10
3.	多文化共生社会の構築	11
3. 1	「多文化共生社会の構築」	11
4.	処務の概要	13

1. 学術・科学技術の振興

1. 1 倉田奨励金

本事業は令和6年度までに、1,652件の研究テーマに総額約26.5億円を助成し、国内の研究活動の支援を行ってきた。また、旧5財団統合を機に行った見直しで、助成対象を社会課題解決に資する研究とし、その後、自然科学研究に加え人文・社会科学部門にも助成し、先駆的な助成事業として認知されてきた。

令和7年度の助成金の交付の内容は下記の通りである。

(1) 助成対象者

- ①日本国内の大学及びその附属研究施設、研究機関、高等専門学校に所属する研究者（株式会社に所属する研究者は除く）。大学院生の応募可。
- ②所属機関長（総長・学長、研究科長、学部長、理事長、研究所長、直属の上長等）の推薦書を必要とする。推薦の数に制限無し。
- ③国籍は問わない。ただし日本国内に居住し、研究期間終了まで国内に継続した研究拠点を有する見込みの方に限る。
- ④自然科学・工学研究部門：募集年度4月1日現在の年齢が45歳以下であること。
人文・社会科学部門：年齢制限無し。

(2) 助成部門

①自然科学・工学研究部門

国際的な視野で社会課題の解決に資する、若手研究者による独創的、先駆的な研究。分野は以下の3つとする。

I. エネルギー・環境

II. 都市・交通

III. 健康・医療

②人文・社会科学部門

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点（社会、文学、歴史、哲学、倫理、法制度、経済学、心理学、文化・芸術等）から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

(3) 助成金額：（ ）は研究期間

自然科学・工学研究部門

(1年) 最大100万円／1件

(2年) 最大300万円／1件

人文・社会科学部門

(1年) 最大100万円／1件

(4) 募集方法

募集は公募とし、案内を当財団ホームページに掲載し募集した。

募集期間は令和7年7月1日～9月16日とした。

(5) 選考委員

・選考委員長

花木 啓佑 東京大学名誉教授、東洋大学名誉教授

・選考委員

石田 東生 筑波大学名誉教授

小原 春彦 産業技術総合研究所 副理事長(兼) 研究・開発責任者

垣見 和宏 近畿大学医学部 主任教授

岸本 充生 大阪大学社会技術共創研究センター長/D3 センター 教授

津本 浩平 東京大学大学院工学系研究科 教授

埴 隆夫 東京医科歯科大学名誉教授

堀江 宗正 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

松岡 秀行 日立製作所 研究開発グループ 技術顧問

松本 健郎 名古屋大学大学院工学研究科 教授

横山 広美 東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 教授

(6) 助成金の贈呈

大学：113校、研究機構：17機関から計352件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、自然科学・工学研究部門28件（エネルギー・環境：8件、都市・交通：6件、健康・医療：19件）、人文・社会科学研究部門11件の計44件に対し、合計約5,500万円を交付するとして選考結果を、理事長の承認を得て決定した。令和8年3月2日（月）に贈呈式を実施、同3月、開催報告を当財団ホームページに掲載した。

令和7年度採択研究テーマ一覧(44件)

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
自然科学・工学研究部門／エネルギー・環境8件						
1653	真空環境下での高電圧印加時における帯電粒子の力学的挙動解析と月面太陽光発電への応用	安達 眞聡	京都大学	准教授	1年	1,000,000
1654	紫外線を効率的に近赤外線に変換するフィルムの開発	北川 裕一	北海道大学	准教授	2年	2,260,000
1655	生分解性プラスチックの分解機構の体系化と寿命予測モデルの構築	小池 貴誠	京都大学	博士後期課程1回生	1年	1,000,000
1656	沿岸生物多様性回復に向けたNature-based Solutions：藻食性魚類の価値化によるネイチャーポジティブ効果の統合評価	光斎 翔貴	立命館大学	准教授	2年	3,000,000
1657	高次化8座配位システムによる貴金属リサイクル技術の開発	小林 透威	慶應義塾大学	助教	1年	1,000,000
1658	トポロジカル表面状態を利用した革新的水電解触媒の創製	須田 理行	名古屋大学	教授	2年	3,000,000
1659	自在なアニオン欠陥制御による電解触媒開発	中村 崇司	名古屋大学	教授	2年	3,000,000

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
1660	次世代型 PET 化学リサイクルに向けた CO2 統合プロセスの設計	ワヒュー サトプリョ プトロ	産業技術総合 研究所	主任研究員	1 年	1,000,000
自然科学・工学研究部門／都市・交通 6 件						
1661	流域治水における土地利用規制制度の導入実態調査とエージェントベースモデルによる都市構造・洪水リスク・社会的影響の統合的評価	崎山 賢人	京都大学	博士後期課程 2 年生	1 年	1,000,000
1662	深層学習と動的システムモデル融合による軽量かつ解釈可能な衛星画像の将来予測	篠原 崇之	産業技術総合 研究所	研究員	1 年	1,000,000
1663	運転挙動の時系列解析に基づくドライバー・ストレス推定モデルの構築と交通安全への応用	坪田 隆宏	愛媛大学	准教授	1 年	1,000,000
1664	実交通時間に基づいた都市サービス圏の最適化設計手法に関する研究：広島県における救急医療体制をケーススタディとして	前澤 俊憲	横浜市立大学	修士課程	1 年	1,000,000
1665	極小微動アレイ探査を用いた市街地・住宅地液状化リスク評価システムの開発に関する研究	王 海龍	東京大学	特任准教授	1 年	1,000,000
1666	気候変動下における洪水ハザードおよびリスク評価のための全球洪水モデリングへの堤防システムの統合	趙 剛	東京科学大学	助教	1 年	1,000,000
自然科学・工学研究部門／健康・医療 19 件						
1667	構造物性に基づくタンパク質集合体の秩序制御原理の解明	安部 聡	京都府立大学	准教授	1 年	1,000,000
1668	アミノ酸特殊翻訳を利用した抗酸化システムに基づく「老化」と「がん」の理解	井上 大地	大阪大学	教授	2 年	3,000,000
1669	膝外脂肪組織への浸潤を伴う膝管癌における癌関連脂肪細胞の機能解明	大塚 拓也	北海道大学	博士課程 4 年	1 年	1,000,000
1670	脂肪酸 CoA 感知機構の構造的・熱力学的知見に基づく代謝産物センサー分子を標的とした新規肥満治療の創出	戒能 賢太	筑波大学附属 病院	研究員	1 年	1,000,000
1671	胎盤選択的な核酸送達技術の開発と流産阻止への応用	國村 和史	九州大学	准教授	1 年	1,000,000
1672	「細胞のエイジング」を可視化する技術の確立	小松 哲郎	群馬大学	講師	1 年	1,000,000
1673	ミトコンドリア Ca ²⁺ を介した体内時計の制御薬の開発	金 尚宏	量子科学技術 研究開発機構	チームリーダー	1 年	1,000,000
1674	芳香族化合物の再利用を志向した天然物合成	斉藤 竜男	東京農業大学	准教授	1 年	1,000,000
1675	コリン欠乏による肝脂肪滴形成メカニズムの解明に基づく代謝機能障害関連脂肪肝炎の治療薬開発	佐久間 一 基	千葉大学	特任准教授	1 年	600,000

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究 期間	決定金額 (円)
1676	染色体不安定性が誘発するミトコンドリア機能不全：難治性肺腺癌の代謝脆弱性を標的とした新規治療戦略の創出	柴 綾	筑波大学	准教授	1年	1,000,000
1677	非侵襲的な炎症性腸疾患イメージング剤の創出に資する抗体開発	妹尾 暁暢	九州大学	助教	1年	1,000,000
1678	胚を試験管内で休眠させる技術の開発	高岡 勝吉	徳島大学	准教授	1年	1,000,000
1679	光変換技術を利用して神経免疫関連機構を解明する	田中 真司	東京大学医学部附属病院	助教	1年	1,000,000
1680	量子センシング技術—免疫計測の異分野融合による超高感度微小炎症検出プラットフォームの開発	田中 勇希	量子科学技術研究開発機構	主任研究員	2年	3,000,000
1681	超好熱菌由来エンカプスリンのサイズ可変性を端緒とする粒子構築機構の解明と応用基盤の創出	東浦 彰史	広島大学	助教	1年	700,000
1682	次世代細胞免疫療法を目指した細胞表層糖鎖エンジニアリング	真鍋 良幸	大阪大学	教授	2年	3,000,000
1683	新たな抗原-TCR ペア網羅的探索システムを用いた骨軟部肉腫の免疫応答解明	村田 憲治	札幌医科大学	助教	1年	1,000,000
1684	母乳 IgA 抗体が制御する乳児期腸内細菌叢と個体成熟後における炎症性疾患感受性制御の解明	森田 直樹	東京大学	助教	1年	700,000
1685	腫瘍横断的治療戦略を志向した PSMA の腫瘍血管標的化と分子基盤の探究	渡辺 隆太	愛媛大学医学部附属病院	特任講師	1年	1,000,000
人文・社会科学研究部門 11 件						
1686	ドローンとインタビューを用いたモノとコトの図示：フィリピンの低所得者層住宅地にみるインフラの社会学	遠藤 賢也	東京大学	博士課程学生	1年	994,000
1687	テレワーク時代における男性の育児休業と夫婦のキャリア平等	尾野 裕美	筑波大学	准教授	1年	1,000,000
1688	日本におけるエビデンスに基づく警察活動の導入に向けて：英国での取り組みから	鈴木 あい	福島大学	特任准教授	1年	1,000,000
1689	生と死の境界を超える技術その倫理的・法的・社会的課題の検討	土屋 裕子	東京科学大学	研究員	1年	1,000,000
1690	「被爆体験」を問い直す—東友会「被爆者相談記録簿」の全容解明に向けた資料調査・研究を通じて—	西井 麻里奈	名古屋工業大学	准教授	1年	1,000,000
1691	安保理常任理事国の特権と核兵器国の特権の相互作用の研究	濱村 仁	東京大学	特任研究員	1年	750,000

奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者	所属	役職	研究期間	決定金額 (円)
1692	「公害遺産」概念の提案：水俣・百間排水口問題を起点として	林 美帆	岡山理科大学	准教授	1年	750,000
1693	アルゴリズム統治の制御に向けたデジタル立憲デモクラシーの構想	松尾 隆佑	宮崎大学	准教授	1年	750,000
1694	違法薬物を対象とした下水疫学調査の社会実装に向けた社会的・制度的・倫理的課題と社会的受容条件の研究	水野 聡美	国立精神神経医療研究センター	リサーチフェロー	1年	1,000,000
1695	水産養殖におけるバイオテクノロジー導入を通じた共生食料システムと「代謝の攪乱」：人類学的視点からの分析	吉田 真理子	広島大学	助教	1年	1,000,000
1696	人口高齢化と長期介護需要：AI ロボットはLTC 産業の将来を変革し得るか	シュウ ミンジョン	政策研究大学院大学	教授	1年	750,000
					合計	55,254,000

(7) 研究成果報告

研究期間を終了した受領者 51 名の研究成果を「第 54 集 倉田奨励金研究報告書」として発行し、広く一般に公開した。また、代表者 4 名による研究報告会を、令和 7 年度贈呈式当日に以下のとおり開催した。

研究発表者

(エネルギー・環境分野)

奨励金 No. 1571 大阪公立大学 岡林 賢仁 氏

アルコールの C-O 結合の切断を基軸とする触媒的分子変換手法の開発

(都市・交通分野)

奨励金 No. 1536 東京科学大学 河瀬 理貴 氏

不完全な情報環境における災害物流の主体間連携のための分散制御手法

(健康・医療分野)

奨励金 No. 1548 物質・材料研究機構 達 博 氏

電子線集光可能な回転結晶の膜を用いた内視鏡用 X 線光源の集積化

(人文・社会科学研究部門)

奨励金 No. 1613 滋賀県立大学 山田 歩 氏

検索エンジン・生成 AI のサービス利用がアンコンシャス・バイアスの拡散に与える影響に関する心理学研究

1. 2 日立財団科学技術セミナー

令和 7 年度は、第 21 回日立財団科学技術セミナーとして、越前 功氏（国立情報学研究所 情報社会関連研究系 教授）を講師に招き、「ディープフェイクを見抜く一創る AI vs 守る AI」をテーマに会場と配信のハイブリッドで実施した。深刻な社会

問題となっている生成AIを使用したディープフェイクについて、その脅威と生成手法、検出技術をはじめとした最新の対策技術について解説された。

第 21 回 日立財団科学技術セミナー

- ・ 題目：「ディープフェイクを見抜く一創るAI vs 守るAI」
- ・ 日時： 令和 7 年 11 月 15 日(土) 13:30~15:00
- ・ 場所： (会場) 九段会館 (配信) Zoomウェビナー
- ・ 参加者： 304 名 (登録者数 511 名)

令和 7 年 12 月、開催報告、および講演のアーカイブ視聴案内を当財団ホームページに掲載した。

1. 3 日立財団アジアイノベーションアワード

アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対し表彰する。

令和 7 年度 (第 6 回) の表彰内容は下記の通り。

(1) 表彰対象

持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループとする。

募集においては、SDGsにおける、17 のゴール及び 169 のターゲットのうち、応募者がメインのゴール 1 つとターゲット 1 つを選定し、これらに貢献すると考えられる研究および研究開発のテーマ例を設定して応募する。

(2) 対象国、対象とする大学・研究機関

募集内容に合わせて、毎年度 ASEAN 各国の中から、対象国、対象大学および研究機関を選定し、応募者を推薦いただく。応募者は、対象大学または研究機関に所属し自国で研究を行う研究者、教員、学生とする。令和 7 年度の対象国については、SDGs の趣旨である底上げおよび限られたリソースの効果的配分という従前の方針を維持し、前年度同様の 6 か国 (カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム) とする。対象大学・研究機関は、科学技術系を中心とした理系分野の強み、SDGs の趣旨との親和性、過去の応募状況、地域バランスなどを総合的に勘案して選定し、下記 26 大学・研究機関を対象とした。

カンボジア カンボジア開発資源研究所
 カンボジア研究・農村開発研究所
 カンボジア工科大学
 王立農業大学
 王立プノンペン大学

インドネシア ガジャマダ大学
 スラバヤ工科大学
 インドネシア大学

ラオス	北スマトラ大学
	国立農林研究所
	ラオス国立大学
	エネルギー・資源研究所
	サバナケット大学
ミャンマー	スファヌボン大学
	マンダレー大学
	ヤンゴン大学
	ヤンゴン工科大学
フィリピン	イエジン農業大学
	アテネオ・デ・マニラ大学
	デ・ラ・サール大学
	フィリピン大学ディリマン校
ベトナム	フィリピン大学ロスバニオス校
	ハノイ工科大学
	ホーチミン市工科大学
	フエ大学
	トンドゥックタン大学

(3) 表彰内容

- ・ 最優秀賞 副賞 賞金 300 万円/件
- ・ 優秀賞 副賞 賞金 100 万円/件
- ・ 奨励賞 副賞 賞金 50 万円/件

(4) 募集方法

事前に確認した対象大学・研究機関の窓口となる部署の担当者に対し、募集要項・申請書等を電子メールで送付し、窓口部署からの電子申請のみ受け付けた。募集期間は令和7年4月1日～6月30日とした。

(5) 選考委員

- ・ 選考委員長

Monte Cassim 国際教養大学 学長

- ・ 選考委員

河野 泰之 京都大学 副学長（国際戦略担当）・教授

佐藤 百合 独立行政法人 国際交流基金 参与

西野 由高 筑波大学 国際産学連携本部 本部審議役 特任教授

前田 英作 東京電機大学 システムデザイン工学部 学部長・教授

(6) 選定結果

合計 39 件の応募があり、選考委員会にて慎重かつ厳正に審査を行い、最優秀賞 1 件、優秀賞 4 件、奨励賞 8 件を選定。

令和7年度表彰案件一覧

賞	研究テーマ	代表研究者	所属大学	SDGs Target
最優秀賞	エネルギーを超えた地熱：地熱水からの有用鉱物回収とグリーン産業への応用	Dr. Himawan Tri Bayu Murti Petrus	ガジヤマダ大学	12.2
優秀賞	汚染物質からタンパク質へ：食と環境を守るバイオレメディエーション技術	Dr. Adi Setyo Purnomo	スラバヤ工科大学	6.3
優秀賞	電子パッケージの信頼性向上に向けた熱機械解析と設計技術の開発	Dr. Aristotle Tulagan Ubando	デ・ラ・サール大学	9.1
優秀賞	有害ガスの早期検知による健康・環境保護を目的としたスマートガスセンサー技術の開発	Dr. Manh Hung Chu	ハノイ工科大学	11.6
優秀賞	量子技術とAIによるIC設計最適化：ベトナムなどの開発途上国における半導体研究開発の加速	Dr. Trang Hoang	ホーチミン市工科大学	9.5
奨励賞	全脂大豆から代替肉へ：単軸押出法による持続可能なタンパク質と地域連携	Dr. Floirendo Pantas Flores	フィリピン大学ロスバニョス校	2.3
奨励賞	農業廃棄物と水生植物を活用した有機肥料・バイオ炭の開発	Dr. Hoa Thi Thai Hoang	フエ大学	12.2
奨励賞	有用微生物による水稻の生産性向上と持続可能な農業の推進	Dr. Kakada Oeum	カンボジア工科大学	2.4
奨励賞	エネルギー、健康、環境モニタリングのための機能性ナノ材料ベースのセンサーの持続可能な製造	Dr. Ruri Agung Wahyuono	スラバヤ工科大学	9.5
奨励賞	ラオス由来牛の生産性向上と環境負荷低減に向けた米焼酎粕飼料の活用	Dr. Sangkhom Khom Inthapanya	スファヌボン大学	2.4
奨励賞	製鉄廃棄物由来グラフェン系ナノ材料による環境・産業応用の展開	Dr. Tan Thi Vu	ハノイ工科大学	12.4
奨励賞	公衆衛生の向上をめざした先進免疫ナノ医療およびワクチンプラットフォームの開発	Dr. Viet Quoc Le	トンデュックタン大学	3.b
奨励賞	多様な食品システムにおける食品の安全性、真正性、機能的品質を迅速に評価するためのグリーン分析手法	Dr. Widiastuti Setyaningsih	ガジヤマダ大学	3.4

(7) 表彰対象者決定

選考委員会の結果を選考委員長から日立財団理事長に対し報告し、理事長の承認を得て、表彰対象者を決定した。令和8年1月末に、当財団ホームページに受賞者を公開した。

URL：<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/award/list/2025/index.html>

(8) 表彰式 令和8年1月16日（インドネシア／ジャカルタ）

<会場参加者> 当日参加者 60名

■最優秀受賞者、同行者約30名

■対象大学関係者約15名

■インドネシアの日立スカラシップ卒業生（希望者15名）

<オンライン参加者> 当日視聴者 52名

<アジェンダ>

■理事長挨拶（公益財団法人 日立財団 理事長 中畑英信）

■来賓挨拶

- ★在インドネシア日本国大使館 臨時代理大使 明珍充氏
- ★インドネシア大学学長 ヘリ・ヘルマンシア氏（当日は代読者）

■表彰式

■研究概要発表（最優秀賞受賞者3名）

■選考委員長挨拶

- ★国際教養大学 学長 モンテ・カセム氏

■写真撮影

■懇親会

令和8年2月末に、当財団ホームページに開催報告を掲載した。

URL: <https://www.hitachi-zaidan.org/activities/award/topics/2601001.html>

(9) 日立財団スカラーズとの交流

- ・8月26日:インドネシア出張時にスラバヤ工科大学のアワード過去受賞者を訪問。スカラーシップ卒業生7名とも会食を実施した。
- ・1月16日:ジャカルタでの表彰式では、アワード受賞者の他にスカラーシップ卒業生(15名)の参加があった。
- ・メルマガ配信:4月9日(第1回)を皮切りに、5月15日、7月30日、9月30日、12月12日、2月27日に計6回配信した。

1. 4 日立感染症関連研究支援基金

研究助成は令和6年度に終了し、令和7年度は、研究成果報告書を書籍にとりまとめ、広く社会に共有した。

(1) 書籍化の特色

- ・国際共同研究であることから、英語・日本語で構成した。
- ・ISBN(国際標準図書番号)を取得し、国際的な書籍検索に対応した。
- ・国立国会図書館をはじめ、国内の主な大学・機関の図書館に寄贈した。

(2) 収載内容

- ・巻頭言(日立財団 理事長 中畑英信)
- ・助成関連イベント実施報告
- ・各研究プロジェクトの成果報告(5件)
- ・国際シンポジウム 選考委員長講評 講演録(編集版)
(国際教養大学 学長 モンテ・カセム氏)
- ・あとがき(東京大学 大学院法学政治学研究科 教授 城山英明氏)

令和7年12月に当財団のホームページに掲載した。

URL:

<https://www.hitachi-zaidan.org/reference-room/program/fundsupport/index.html#sec01>

2. 人づくり

2. 1 理工系人財育成支援事業

平成 28 年度に当財団の中核領域である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、創造的で社会をデザインする次世代の人財育成を念頭に、特にSTEAM教育や理工系女子育成の支援を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」(小学生向け)

「イノベーション創出」ができる次世代の理工系人財を育てることを目的に、日立グループの社員を企業講師として派遣し、小学校 5 年生を対象とした課題解決型の探求学習プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を実施している。

令和 7 年度は、竹間沢小学校(埼玉県)、光ヶ丘小学校(千葉県)、富勢小学校/富勢西小学校(千葉県)、上原小学校(東京都)、間門小学校(神奈川県)、真玉小学校(大分県)の 7 校向けに対面で実施した。

(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)

女子中・高生の理工系進路へのモチベーション喚起を目的に事業を推進。

2015 年度にシンポジウム開催、2016 年度から 2021 年度の間は理工系で活躍する女性研究者へ個別インタビューを行いパイオニアトークとして財団ホームページに掲載。2022 年度からは、公開イベントとして理工系出身の女性キャリアの方々に登壇いただき、パイオニアトークとワークショップによる啓発活動を実施することによって、理工系女子育成、人財の多様性の実現とそれによるイノベーションの促進に貢献している。

令和 7 年度は次年度以降の事業検討をするために調査イベントを実施し、出席者から新たな気づきを得られたと想定以上の好評を得られた。

- ・インタビュー：横山広美氏(東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙機構 学際情報学府 教授)

・対談&ワークショップ

タイトル：理工系のみらいをデザインする～私たちが描く 10 年後の社会～

日時：令和 7 年 7 月 21 日(月) 13:00~16:00

場所：日本科学未来館

登壇者：柳田理科雄氏 明治大学兼任講師、空想科学研究所主任研究員

横山広美氏 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙機構
学際情報学府 教授

京極大助氏 奈良女子大学理学部生物科学コース 准教授

参加者：74 名(小学生 2 名、女子中高生 28 名、男子中高生 13 名、保護者 24 名
教員・研究者等 7 名)

令和 7 年 10 月に当財団のホームページ内特別サイトに掲載した。

URL：<https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/topics/topics073.html>

3. 多文化共生社会の構築

3. 1 「多文化共生社会の構築」

性別、国籍、年齢、障がいの有無、性的指向など属性の差異を超え、多様な立場や価値観を認め合って、各々が生き生きと、一体となって生活する社会を「多文化共生社会」と定義し、一般市民に向けて意識改革を促す啓発事業を実施している。令和5年12月に電子ジャーナル「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」を創刊した。令和7年度は、6月に第4号と、12月に第5号を発行した。

URL : <https://www.hitachi-zaidan.org/global-society-review/index.html>

(1) 「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」の目的

本ジャーナルは、多文化共生社会の構築に関連する学術分野の有識者が相互に専門性を生かして、意見交換、発展的な交流を行うことで、有機的な結合を促し、多文化共生社会研究を深めるためのプラットフォームの1つとして、効果的に活用出来る新たな研究やネットワークづくりの場とすることをめざす。

(2) 日立財団グローバル ソサエティ レビューのコンテンツ

第4号（令和7年6月20日発行）

タイトル 「科学技術 × 多文化共生」

01 巻頭言 「多文化共生社会の構築について思うこと」

谷口 武俊氏（編集委員）

02 鼎談 「多文化共生社会とテクノロジーがどう向き合うのか」

是川 夕氏（編集委員長）

南澤 孝太氏（慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科（KMD）教授）

岸本 充生氏（大阪大学D3センター 教授）

03 論文 ①多文化共生とコミュニケーションテクノロジー

—外国人労働者1,000万人時代に向けて—

コチュ オヤ氏（編集委員）

②生成AIが多文化共生社会に与える影響

岸本 充生氏（大阪大学D3センター 教授）

③社会的公正を志向する教育実践の試みとICT活用

—外国につながる生徒の教育・支援を通して—

川田 麻記氏（桜美林大学リベラルアーツ学群 准教授）

角田 仁氏（東京都立町田高等学校（定時制課程）教員）

額賀 美紗子氏（編集委員）

04 連載 「統計から読み解く移民社会④」

是川 夕氏（編集委員長）

05 リレートーク 多文化共生の未来を創る、取り組み紹介

明治大学国際日本学部 山脇ゼミ

06 編集後記 唐沢 穰氏（編集委員）

第5号 (令和7年12月20日発行)

タイトル 「経済 × 多文化共生」

01 巻頭言 「自分がもしその立場だったら ～反対側から見た多文化共生～」
鈴木 輝也(編集委員)

02 シンポジウム講演録

基調講演：「Immigrant Japan ー移民社会日本について」

グラシア リュー ファーラー氏(早稲田大学大学院

アジア太平洋研究科 教授)

パネルディスカッション①：「暮らしと生活 ー私たちにとっての日本、そして
世界」

唐沢 穰氏 (モデレーター/編集委員)

下地 ローレンス吉孝氏 (パネリスト/編集委員)

副島 淳氏 (パネリスト/俳優、タレント)

マライ メントライン氏 (パネリスト/コメンテーター)

パネルディスカッション②：「仕事と経済 ー多様性とイノベーション」

是川 夕氏 (モデレーター/編集委員長)

アルベルト ミヤンマルティン氏 (パネリスト/慶応義塾大学経済学部
准教授)

梅崎 昌裕氏 (パネリスト/東京大学大学院医学系研究科

人類生態学分野 教授)

コチュ オヤ氏 (パネリスト/編集委員)

友原 章典氏 (パネリスト/青山学院大学国際政治経済学部

国際経済学科 教授)

03 エッセイ 日本における外国人労働者受入れ政策のパラダイムシフトと若干の
思い出

佐々木 聖子氏(公益財団法人入管協会 業務執行理事)

04 論文 「多文化共生社会の実現に向けた課題と展望 ー外国人市場、
住環境、受け入れ主体の意識変革を中心にー」

後藤 裕幸氏(株式会社グローバルトラストネットワークス

代表取締役社長)

「移民受け入れと日本経済 ー日本経済研究センター長期経済予測を
読み解く」

石橋 英宣氏 (公益社団法人日本経済研究センター 研究本部

主任研究員)

05 座談会 「国籍も性別も年齢も関係なく、同じ目標に向かうスタッフとして
働いています ～日立GLSにおける多様性の現在地～」

日立グローバルライフソリューションズ栃木事業所

06 連載 「統計から読み解く移民社会⑤」

是川 夕氏（編集委員長）

07 リレートーク 多文化共生の未来を創る、取り組み紹介

順天堂大学保健看護学部 やさしい日本語部

08 編集後記 コチュ オヤ氏（編集委員）

（3）シンポジウム開催

- ・タイトル：多文化共生とイノベーションの発見 ～これからの日本をどのようにつくるか～
- ・開催日時：2025年6月15日（日）13:00～16:00
- ・会場：アキバホール（アキバプラザ5階）
- ・参加者数：321名（会場74名、オンライン247名）

（4）社外団体との交流

- ・電子ジャーナルの発行を通して、他団体との将来のコラボレーションを視野にネットワークを積極的に構築中。
NPO 法人 Connection of the Children (CoC※) を訪問し、多文化共生社会の構築についての情報交換を実施。
※CoCは、横浜市内で地域の人々と外国ルーツの方が触れ合える拠点 CASACO を設立。
日本語教室や世界の料理教室などのイベントを行っている。

（5）外部メディアからの取材

- ・NHK Eテレ「ハートネットTV」1/19(月) 20:00-20:29で放映。外国人犯罪についての根拠となるデータ※として、番組内で「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」第4号 記載のグラフが使用された。
※日本国内の犯罪件数に占める、外国人による犯罪件数が増えている事実が無いことを示すもの

4. 処務の概要

（1）役員等に関する事項

（敬称略・五十音順） 令和8年3月31日現在

役職	氏名	手当	現職
理事長	中畑 英信	無給	(株)日立製作所 エグゼクティブアドバイザー
理事	内田 幸雄	有給	ENEOSホールディングス(株) 名誉顧問
〃	大島 まり	〃	東京大学大学院情報学環/ 東京大学生産技術研究所 教授
〃	小山田 隆	〃	(株)三菱UFJ銀行 特別顧問
〃	西澤 敬二	無給	損害保険ジャパン(株) 顧問
〃	平尾 雅彦	有給	東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー
常務理事	今村 俊明	〃	(公財)日立財団

役 職	氏 名	手 当	現 職
監 事	四元 弘子	有 給	森・濱田松本法律事務所 パートナー(弁護士)
〃	西川 浩司	〃	公認会計士 西川浩司会計事務所所長
評議員	荒井 勝	〃	NPO法人日本サステナブル投資フォーラム 会長
〃	平井 裕秀	無 給	(株)日立製作所 執行役常務
〃	大西 隆	有 給	東京大学 名誉教授
〃	鈴木 朋子	無 給	(株)日立製作所 専門理事
〃	河野 通長	有 給	(株) ミチクリエイティブシティデザイナーズ 代表取締役社長
〃	佐藤 百合	〃	独立行政法人 国際交流基金 理事
〃	高橋 真理子	〃	ジャーナリスト、元朝日新聞科学コーディネーター
〃	大西 楠テア	〃	東京大学 法学政治学研究科 教授

(2) 職員に関する事項

令和8年3月31日現在

職 務	氏 名	就任年月日	手 当
事務局長	早川 勉	令和6年4月1日	有 給
事務局次長	岡田 直子	令和4年6月1日	〃
グループリーダー	衛藤 史明	令和4年1月1日	〃
プログラムオフィサー	寺村 奈津季	平成11年2月21日	〃
〃	渋谷 紀子	平成14年10月11日	〃
〃	笠井 怜子	令和2年12月1日	〃
コーディネーター	加藤 優子	令和6年2月13日	〃
〃	高橋 美幸	令和7年10月1日	〃
(担当)	山本 沙良	令和7年11月1日	〃

(3) 役員会に関する事項

理 事 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	議事の結果
令和7年4月10日	評議員会招集の件	原案承認
令和7年6月3日	・令和6年度事業報告及び決算報告の件 ・理事及び監事候補者選任の件 ・評議員会決議省略の件	原案承認
令和7年6月3日	・代表理事（理事長）および常務理事選定の件	原案承認
令和8年1月6日	評議員会招集の件	原案承認
令和8年2月13日	・令和8年度事業計画及び収支予算の件	原案承認

評 議 員 会

開催年月日	議 事 事 項	議事の結果
令和7年6月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事および監事選任の件 ・ 評議員選任の件 ・ 議事録の署名押印者選任の件 	原案承認
令和7年6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度事業報告及び決算報告承認の件 	原案承認
令和8年2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和8年度事業計画及び収支予算の件 ・ 評議員選任の件 ・ 議事録の署名捺印者選任の件 	原案承認

(4) 認可・許可及び承認に関する事項

無

(5) 契約に関する事項

無

(6) 寄附金に関する事項

寄 附 の 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額
令和7年度運営資金	(株)日立製作所、(株)日立ハイテク、(株)日立システムズ、三菱HCキャピタル(株)、(株)日立ソリューションズ、(株)日立ビルシステム、(株)日立リアルエステートパートナーズ他 計 31 社・日立グループカフェテリアプラン	44,601,380 円

(7) 主務官庁の指示に関する事項

無

(8) 附属明細書

事業における重要な事項は令和7年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第三項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無い。

以上